

小 学 校

平成 2 4 年度

# 教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

## 目 次

I	主題設定の理由	1
1	児童の資質や能力について	1
2	評価における現状と課題について	1
II	研究の視点	2
1	仮説	3
2	仮説設定の理由	3
IV	研究の内容	4
1	本研究の具体的な内容	4
2	研究の方法	5
3	研究の構想図	6
4	検証授業	7
V	研究の成果	23
1	時系列確認表の活用	23
2	主題にせまるための五つの手だて	23
3	評価資料の収集	23
VI	今後の課題	23
1	資質や能力を育むための手だての吟味	23
2	評価資料の収集方法の工夫	23
3	児童相互のかかわり合いの重視	23
4	指導と評価の一体化を中心とした改善	24

**東京都教育研究員共通テーマ「学習指導要領に対応した授業の在り方」**  
**図画工作部会 研究主題 「図画工作科における評価」**  
**～児童の資質や能力を育むために～**

## I 主題設定の理由

### 1 児童の資質や能力について

小学校学習指導要領解説図画工作編には、「見たり感じたりする力」「次にどのような形にするかを考える力」「それを実現するために用具や用法を工夫する力」「つくりだす喜びを味わうこと」などの資質や能力は、児童に本来備わっていることが示されている。児童は、身近な物や人と触れ合いながら、自分の感覚や行為を手がかりに、自ら働きかけたり、まわりから働きかけられたりしながら成長していく中で、自然にそれらの資質や能力を発揮している。この資質や能力をより一層育んでいくことが、図画工作科教育の目的であると考えられる。

### 2 評価における現状と課題について

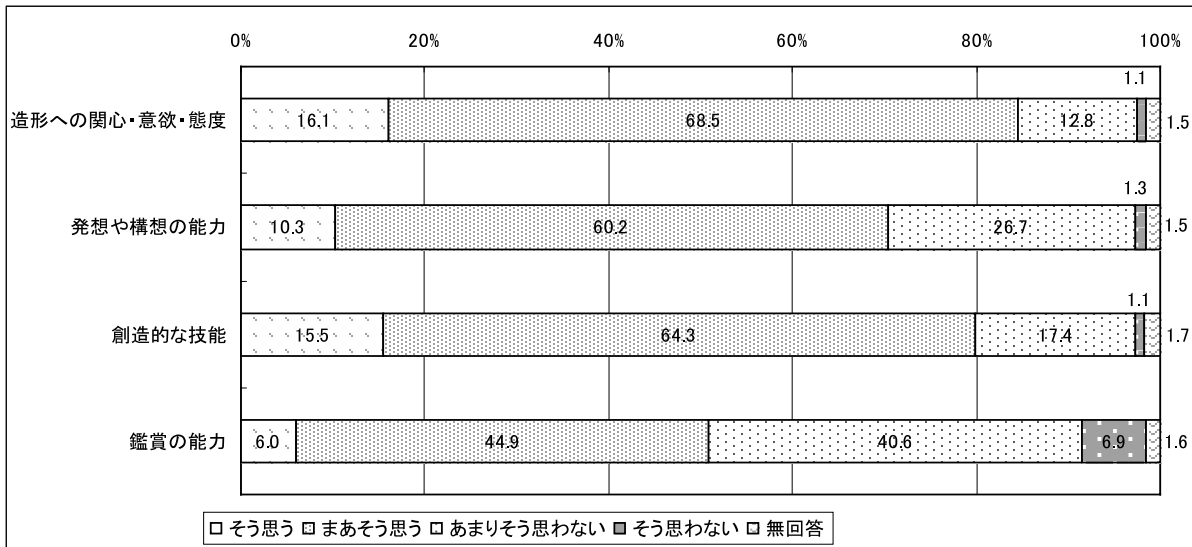
文部科学省が平成21年度に教師と保護者を対象として実施した、「学習指導と学習評価に関する意識調査」では、小・中学校の教師に対する「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価について、これまでの実践を踏まえ、どのように感じていますか。」との問いの回答が、「児童生徒の学力などの伸びがよくわかる（71.7%）」「児童一人一人の状況に目を向けるようになる（83.7%）」「学習評価を授業の改善や個に応じた指導の充実につなげられる（70.0%）」となっており、目標に準拠した評価を行うことによる教師の肯定的な意識を確認することができる。

しかし、「学習状況の評価の資料の収集・分析に負担を感じる」との回答が62.7%、「学習評価を授業の改善や個に応じた指導の充実につなげられない」との回答が28.6%となっていることから、評価資料収集における教師の負担感や、評価を授業改善に生かすことに関しては未だ課題があることが考えられる。

また、「4観点の評価は実践の蓄積があり、定着している（評価の結果を生かし、その後の指導の在り方を見直すようになった）」と感じている教師が70.0%いる一方で、各教科の観点別学習状況の評価の実施状況に関する問いのうち、小学校図画工作科では、資料の収集・分析や評価の決定の実施状況について、「造形的な関心・意欲・態度」では13.9%、「発想や構想の能力」では、28.0%、「創造的な技能」では18.5%、「鑑賞の能力」では、47.5%の教師が「円滑に実施できていない」と回答している。研究員の間でも、本調査結果に示されていることと同様の現状があり、児童の資質や能力を育むためには、活動過程を観察し、評価し、評価の結果を児童に還元していくために、具体的な評価場面や評価方法を研究していくことが重要であると考えた。

さらに評価したことを授業改善に生かし、児童の資質や能力を育むことに役立てたいと考え、活動過程の評価方法の工夫や手だてについて、検証授業を通して研究を行うこととした。

【小学校における各教科ごとの観点別学習状況の評価の実施状況（図画工作）】



平成21年度文部科学省委託調査報告書「学習指導と評価に対する意識調査報告書」から抜粋

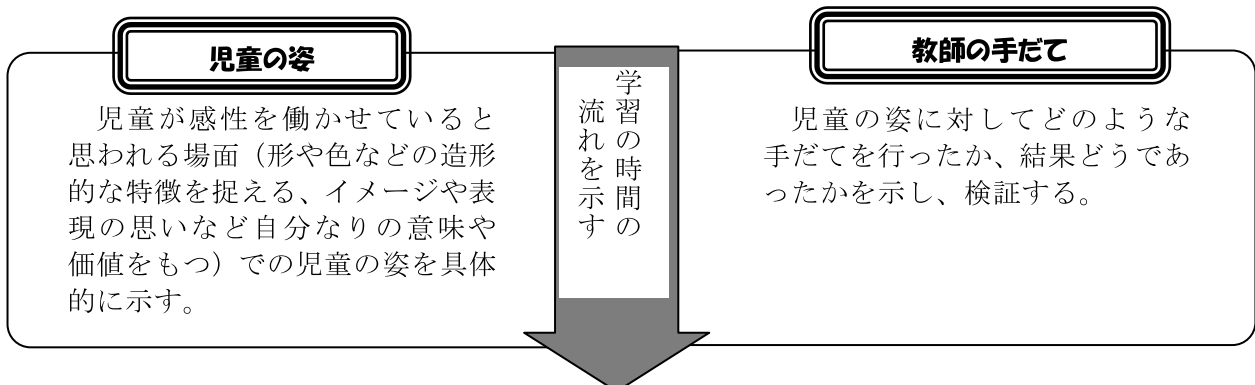
Ⅱ 研究の視点

以上のことから、本研究は、児童の資質や能力を育むために、評価方法の工夫や評価のタイミングを具体的に示した授業を提案することを目的とし、研究主題を「図画工作科における評価」～児童の資質や能力を育むために～と設定し、以下の視点で研究を行った。

- 児童の資質や能力を育むためには、完成した作品のみを評価するのではなく、児童の活動の過程を重視して評価を行うことが重要であることを、検証授業を通して裏付ける。
- 題材に応じた、児童の活動過程の各時期における具体的な評価の観点を、時系列に沿って示す研究とする。
- 評価の結果から、児童の資質や能力を育むための手だてを具体的に示す研究とする。

なお、平成22年度教育研究員小学校図画工作の研究報告書に掲載された「時系列確認表」が、本研究における児童の活動過程の観察に、極めて有効であると考えたため、今年度の研究においても活用することとした。平成22年度教育研究員図画工作の研究報告書には、「時系列確認表」について、「検証授業後に、題材を通して児童が感性を働かせている姿と手立ての関連性をより具体的に捉え、検証するためのものである」記されている。

【時系列確認表】



平成22年度教育研究員小学校図画工作研究報告書から抜粋



## 1 仮説

「児童の活動の過程を大切にしながら、評価したことを指導の改善に生かせば、一人一人の資質や能力を育むことができるであろう。」

## 2 仮説設定の理由

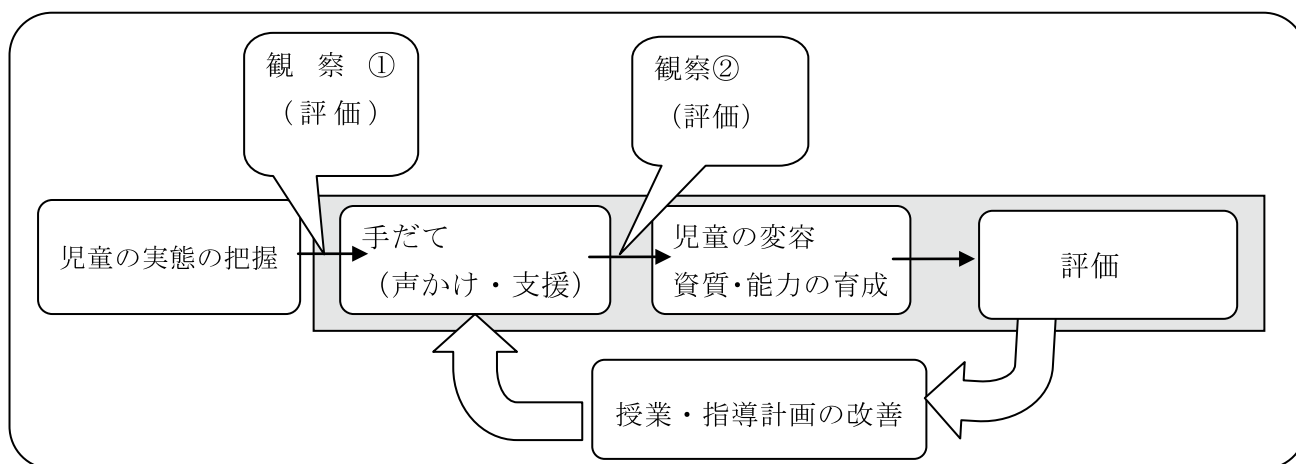
図画工作科では、児童の作品や考えは表現活動の過程とともにどんどん変化していく。つくりながら考え、つくってはまた考え、という活動の中で、児童本来に備わっている資質や能力が発揮される。したがって、児童の動きや視線、会話などから児童が何を感じて、何を考え、どのような工夫をしようとしているのかを捉えることが大切であると考えた。教師がその瞬間を捉え、児童に賞賛や励まし、支援を行うことで、児童が意欲を高め、活動を充実させることができると思う。

そこで、児童の活動の過程をよく観察することで、完成した作品からだけでは確認できない、児童の「造形に関する関心・意欲・態度」や「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」が把握できると考えた。四つの観点は、学習活動の成果物としての作品だけではなく、その過程を含めて評価することが重要と考える。

以上のことから、本研究では、児童の様子を観察し、その評価を基に手だてを講じることを繰り返し、積み重ねていくことによって授業改善をし、児童の資質や能力を育むということを目指した。その中でも特に、手だてを講じる前と後での児童の変容を観察することに重点を置き研究を進めた。この「実態の把握 → 手だて → 児童の資質や能力の育成」を繰り返していくという、評価に関する一連の動きを「評価のフィードバック」という言葉で表している。

このように児童の活動過程の評価をもとに、適切な手だてを講じていけば、その題材の中でより一層児童の資質や能力を育むことができると考え、この仮説を設定し、研究を行った。

### 【評価のフィードバックの構想図】



#### IV 研究の内容

##### 1 本研究の具体的な内容

本研究では、授業中に観察した児童の様子に応じて、具体的な手だてを講じることにより、児童の資質や能力を育むということを目指した。手だてとしては様々なものが考えられるが、ここでは下の表に示した五つの方法について考えていくこととした。

##### 【児童の資質や能力を育むための具体的な手だて】

共感的声かけ	助言	実演	材料・用具・資料の提示	児童の相互鑑賞・意見交換	
児童の行為や思いを価値付ける共感的な声かけを行う。	児童が自分の思いを実現したり、新たな視点をもったりするための、様々な選択肢を示す。	効果的な道具の扱い方など、児童の思いを実現するための方法を具体的に示す。	児童が自分の思いを実現したり、新たな視点をもったりするために適した材料・道具、資料を、適切な場面で提示する。	教師が意図的に設定する場・時間	児童が自発的に行う場・時間
				友達の作品を見たり、意見を聞いたりすることを促すことで、新たな視点に気付かせる。	友達の作品を見たり意見を交流したりする機会や環境を作ることによって児童が自分の思いを実現するヒントを得られるようにして、新たな視点に気付かせる。

本研究では、国立教育政策研究所教育課程研究センターによる「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 図画工作）」に基づき、各授業における児童の学習の実現状況について、「十分満足できる状況」をA、「おおむね満足できる状況」をB、「努力を要する状況」をCと表記する。上の表に示した五つの手だてのうち、例えば「共感的声かけ」では、評価が「十分満足できる」Aの状況と判断される児童と、「努力を要する」Cの状況と判断される児童に対する具体的な声かけの内容は異なる。本研究では、Cの状況の児童をBの状況にするための手だてに重点を置いて研究を行った。五つの手だての具体的な内容は、題材によって異なるため、それぞれの指導案に記している。

この五つの手だてによる児童の変容を確実に評価し、授業改善に生かすという「評価のフィードバック」を適切に行うために、教師が観察したことを記録に残していくこと、そして、児童の記録を残していくことが大切であると考え、研究を進めることとした。

また、手だてを講じた後の児童の変化を再度観察し、確実に評価を行うために、評価資料の収集について、① 教師の記録、② 児童の記録、③ 児童の作品、の3点を、評価の資料として収集し、活用することとした。

本研究では、完成した作品からだけでは読み取れない、「児童に身に付いた力」を把握するため、

特に① 教師の記録 ② 児童の記録を中心に、児童の活動の過程を観察し、評価するための研究を行った。

### ① 教師の記録について

教師の記録としては、五つの手だてを講じる前後の児童の変化を捉えるための方法として、次の2つの方法を題材と活動の場合に応じて活用しながら実践した。

#### A デジタルカメラによる視覚的な記録の活用

デジタルカメラなどによる視覚的な記録など、手だての前後の様子を視覚的に記録したものは、時間の流れによって児童の活動が変化していった様子を児童自身にも提示することが可能なため、鑑賞の時間を設定して相互鑑賞を行う場面で活用することもできる。

#### B 名簿や座席表の活用

名簿や座席表の活用は、例えば、数時間かけて行う題材において、教師が全体の児童に手だてを講じているのかをチェックしたり、児童の活動の様子で特徴的な場面を記録しておき、事後の評価に使うなどの活用方法がある。

	手だてを講じる前	手だてを講じた後
デジタルカメラによる視覚的な記録の活用	手だてを講じる前の活動の様子を撮る。	手だてを講じた後の活動の様子を撮る。
名簿・座席表の活用	児童の様子を <u>赤のペン</u> で記入する。	児童の様子を <u>青のペン</u> で記入する。

なお、題材によって適した方法や使い方が異なるため、具体的な内容についてはそれぞれの学習指導案の中に記す。

### ② 児童の記録について

例として、ワークシートや鑑賞カードなどが考えられる。児童が何をどのように感じたり考えたりしているのかを、児童自身にも教師にも捉えることができるよう、共通事項の観点から形や色、イメージという視点で記入するように指導していくこととした。

この記録についても題材によって適した方法が異なるため、具体的な内容についてはそれぞれの指導案の中に記している。

## 2 研究の方法

次の方法で仮説について検証を行う。

仮説に基づいた検証授業を行う。題材に応じて、児童の資質や能力を育むための五つの手だての適切な時期と場面について、時系列に沿って指導案に具体的に示し、実践する。

検証授業後は、児童の資質や能力を育むための五つの手だてと、その手だてを講じたことによる児童の変容の記録を基に、「評価のフィードバック」が適切に行われる状態を検証する。

### 3 研究の構想図

本研究を一つの図に示すと次のようになる。

#### 【教科の目標】

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

#### 【図画工作科で育成する資質や能力】

造形への関心・意欲・態度

発想や構想の能力

創造的な技能

鑑賞の能力

#### 【研究主題】

図画工作科における評価 ～児童の資質や能力を育むために～

#### 【研究の仮説】

児童の活動の過程を大切にしながら評価したことを指導の改善に生かせば、一人一人の資質や能力を育むことができると考える

#### 【研究の内容】

##### ◎ 児童の資質・能力を育むための五つの手だて

- [ 共感的声かけ ]
- [ 助言 ]
- [ 実演 ]
- [ 材料・道具、資料の提示 ]
- [ 児童の相互鑑賞・意見交流 ]

##### 評価の資料

- [ 教師の記録資料 ]
  - ・名簿や座席表の活用・デジタルカメラなどの記録
- [ 児童の記録資料 ]
  - ・ワークシート・鑑賞カード・アイデアスケッチなど
- [ 児童の作品 ]

#### 【研究の方法】

検証授業・考察・授業改善→授業提案

#### 4 検証授業

##### 検証授業①

1 題材名「枝川・ツリー」 A表現（2）、B鑑賞（1） 対象 第4学年

##### 2 題材の目標

角材などを自由に切り、組み合わせを工夫してタワーをつくる活動を通して、そのよさや面白さを感じながら、つくり出す喜びを味わう。

##### 3 題材の評価規準

###### (1) 題材の評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	木の感触に親しみながら、進んで角材を切ったり、色をつけたりしながら、タワーを組み合わせでつくることを楽しんでいる。	角材を切ることができる形や色の組み合わせから、つくりたいタワーを想像している。	のこぎりの扱いに慣れ親しみながら、木片の形や色の組み合わせ方を工夫して、タワーをつくらしている。	自他のタワーを見たり、話し合ったりしながら、形や色の組み合わせのよさや面白さなどを感じ取っている。

###### (2) 本題材における評価の資料

教師の記録	児童の記録
<p>①座席表の活用</p> <p>本題材では1枚の座席表を使う。次時も同じ座席表を使い、色を変えて記入することで、児童一人一人の状況の把握が網羅できるようにする。特に、児童が形や色を変化させながらイメージを捉えている姿を記録として残すように努める。</p> <p>②デジタルカメラによる記録</p> <p>座席表同様に、児童が形や色を変化させながらイメージを捉えている姿を記録として残すように努める。児童の制作過程を記録することで、活動途中やまとめのときの児童への振り返りに使用し、教師が次時の授業改善の資料として使用できるようにする。</p>	<p>①鑑賞カード</p> <p>自分の活動を形と色の視点から振り返ることで、より具体的に自身の工夫した点を整理できる。</p> <p>また、友達の作品に対しても同様の視点の項目を設けることにより、自身の作品と友達の作品の比較から見直すことができ、自他がより活発な意見交流を行い、よさを感じ取れるような工夫をする。</p>

#### 4 指導観

##### (1) 題材観

本題材では、角材を主な材料として枝川にこんなタワーがあったらいいなとイメージする形をつくることで、表現することの喜びを素直に感じることができる。また、鑑賞の場を教師が意図的に設定することで、自分自身のよさを再発見し、自己の価値を改めて認識できると考え設定した。活動中には、全児童へ新たな材料提供をするなどの工夫をし、児童のイメージの幅を更に広げたい。児童が材料に積極的に働きかけることで、形や色を変化させながら自らのイメージするタワーを具現化していくと考える。また、その過程で友達と互いの作品を見合う中でも、新たな価値観を生み出し、つくり出す喜びや自己肯定感を感じることができるのでは

ないかと考える。そのような活動の中で、教師は児童に寄り添い、その資質や能力が発揮されている姿を的確に把握し、評価のフィルターを通して適切な支援を児童へ返すことにより、資質や能力をより一層育成することができるであろうと考える。

## (2) 研究主題との関わり

本題材においては、学習の実現状況が達成不十分な児童に対して、次のような「児童の資質や能力を育むための具体的な手だて」をとる。

### 【本題材における手だての一例】

手だて	具体的な手だての内容	
共感的 声かけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のペースで安全に切るように肯定的に励ます。</li> <li>・木片の色合いや、組み合わせ方のよさを具体的な言葉で評価する。</li> </ul>	
助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の工夫点を具体的に示す声かけをする。</li> <li>・観察の記録から、活動でがんばっていた姿を伝える。</li> </ul>	
実演	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に接着して見せ、いろいろな形の組み合わせが考えられることを伝える。</li> <li>・木片などの丈夫な接着や組み合わせ方を、いくつか具体的に例示する。</li> </ul>	
材料・道具 の提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に新たな材料を提示し、イメージの幅を広げる声かけをする。</li> </ul>	
児童の 相互 鑑賞	教師が意図的に場面を設定して行う相互鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のイメージに近い友達の組み合わせ方を紹介し、自分がつくりたいタワーを想像させる。</li> </ul>
	児童が自発的に鑑賞を行うための場・時間の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や用具を共同で使用させる声かけをする。</li> <li>・意図的にグループで向き合いながら活動させる場所を設定する。</li> </ul>


## (3) 材料・用具の設定

- ・児童・・・水彩絵の具、はさみ、身近にある材料、汚れてもいい服装
- ・教師・・・垂木・小割（各50cm）、コンパネ、曲線の端材、割り箸、様々な形に切った木切れ、釘身近な材料、のこぎり、げんのう、紙やすり、接着剤（グルーガン）、鑑賞カード


## (4) 本題材における〔共通事項〕

木片の形や色、組み合わせを試しながら、自分なりのタワーのイメージをもつこと。



<p>イ) 他の材料を生かしてタワーを想像することができない。</p> <p>ウ) 想像したタワーになるように、木片や他の材料の組み合わせ方が分からない。</p> <p>・活動を振り返り、鑑賞カードを書く。</p>	<b>活動・過程</b>	<p>イ) 鑑賞のアドバイス 友達の組み合わせ方を鑑賞させ、自分がつくりたいタワーを想像させる。</p> <p>ウ) 実演を含む助言 木片などの丈夫な組み合わせを、いくつか具体的に例示する。</p> <p>・活動を振り返る鑑賞を設定し、鑑賞カードを書かせる。</p>	<p>・鑑賞カードは、授業後に赤でコメントを記入し次時に返却する。</p>
<p>【第2次】90分</p> <p>3 思い付いた「枝川・ツリー」の形を実現したり、新しい形をつくりだしたりする。</p> <p>・木片やその他の材料を接着していく。また、鑑賞から広がったイメージを生かしたり、新しい材料も加えたりしながら、タワーの組み合わせを工夫してつくる。</p>		<p>・接着剤の説明をし、丈夫な組み合わせ方を理解させる。また、接着しながらさらにタワーの形が変化してもよいことを示す。</p>	<p>○木片を組み合わせる想像したタワーをつくる活動を楽しんでいる姿を、観察・作品から捉える。(ア造形への関心・意欲・態度)</p>
<p>【45分】</p> <p>4 固定した「枝川・ツリー」に身近な材料を組み合わせ活動する。</p> <p>・ビーズや綿などの身近な材料を貼ったり、カラーペンなどで細部を描いたりする。</p> <p>イ) 身近材の使い方を考えながらタワーの形が想像できない。</p> <p>ウ) 想像したタワーになるように、身近材などを工夫して活動できない。</p>		<p>・教師が用意した材料と児童が持ってきた材料を紹介し、表現の広がりを見合わせる雰囲気をつくる。</p> <p>イ) 鑑賞のアドバイス 友達の活動に注目させタワーのイメージを広げさせる。</p> <p>ウ) 実演を含む助言 想像したタワーにするためにはどのような工夫があるか具体的に例示する。</p>	<p>○身近な材料の形や色の組み合わせ方を工夫してタワーを仕上げていく姿を、観察・作品から捉える。(ウ創造的な技能)</p> 



<p>【第3次】45分</p> <p>5 自分の「枝川・ツリー」の思いを深めたり、自分の活動を振り返ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を振り返り、鑑賞カードを書く。</li> </ul> <p>エ) 自他のタワーのよさに関心をもてず、鑑賞カードを書くことができない。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・タワーを見る際に、形や色の組み合わせに着目して見るように指示する。</li> </ul> <p>エ) 助言 観察の記録から、自他の活動の中で頑張っていた姿を具体的に伝える。</p>	<p>○自他のタワーを見たり、話しあったりしながら、形や色の組み合わせのよさや美しさなどを感じ取っている姿を、観察・鑑賞カードから捉える。 (エ鑑賞の能力)</p>
---	---	--	--

## 6 成果と課題

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動途中で全児童に新たな材料提供を行うなどの工夫をしたことは、更なるタワーのイメージをもって細部へと目を向けてつくり出す児童の姿が多く見られたため、最も有効な手だてであった。</li> <li>・「接着面を広くした方が丈夫な接着ができるよ。」等、助言や実演のような対話による手だてを授業者があらかじめ用意していたため、具体的な声かけができ、児童の更なる活動を広げることができた。</li> <li>・木片の色合いや、組み合わせ方のよさを評価するような共感的な声かけを授業者が用意していたことでは、特にBの状況と判断される児童や、Aの状況と判断される児童が意欲を継続させて活動へ取り組ませることができた。</li> <li>・鑑賞の際、共通事項を視点にタワーを見させたり意図的に向き合っ活動させたりするなど、場の工夫をしたことで、児童がより具体的な部分に目を向けて友達の活動を鑑賞しながら、自身の表現へ取り入れることができた点について、鑑賞カードから伺うことができた。</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座席表と視覚的記録媒体を活用して児童の観察を行った。授業者が事後評価や授業改善を行う際の資料としては有効な手段ではあったが、活動途中の児童へのフィードバックの手段として利用するには難しかった。また、活動途中で鑑賞を取り入れたことで、タワーの高さに気付き、その後の活動に変化が見られた児童はいたが、大部分の児童には変化があまり見受けられなかった。活動途中での鑑賞を取り入れる際のタイミングや、視点を明確にしていく必要がある。</li> <li>・どこで評価の線引きをするのか（Cに近いBの状況と判断される評価の児童など）明確な基準が必要であり、そのような児童に対する声かけの必要性を更に研究していく必要がある。</li> <li>・鑑賞カードについて、本題材では自分自身の活動が中心であったため、最後の鑑賞で他の児童との比較によって自分の活動を振り返ることはできたが、他の児童のよさを発見するまでには至らなかった。</li> </ul>

## 7 座席表

教卓


※Aの状況と判断される児童・・・☆ Bの状況と判断される児童・・・○ Cの状況と判断される児童・・・♡

※造形への関心・意欲・態度……タ 発想・構想の能力……ハ 創造的な技能……ギ 鑑賞の能力……カ

※次時も同じ座席表を使い、色を変えて記入することで、児童一人一人の状況の把握ができるようにする。

## 8 鑑賞カード

### すてきなアイデア発見カード

☆自分がつくったツリーの形や色の中で先生に見てほしい所☆

.....

.....

.....

.....

\_\_\_\_年 \_\_\_\_組 氏名 \_\_\_\_\_

## 検証授業②

1 題材名「アルミホイルとあそぼう」 A表現（1） 対象 第4学年

### 2 題材の目標

手や身体全体の感覚を十分に働かせてアルミホイルの形を変えたり組み合わせたりする活動を通して、発想を広げたり表し方を工夫したりすることで、造形的な能力を培う。

### 3 題材の評価規準

(1) 題材の評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能◎	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	アルミホイルの素材感を楽しみながら、進んで材料や場所に働きかけ、形を変えたり、組み合わせたりすることを楽しもうとしている。	アルミホイルを自由に操作し、新しい形をついたり、その形や場所から表したいことを発想したりしている。	手や体全体の感覚を働かせ、今までに習った用具の使い方や経験を生かして、形を変えたり切ったりつないだり表し方を工夫している。	

※本題材で鑑賞活動は行わぬが、発想を促すための鑑賞であるため評価は行わない。

(2) 本題材における評価の資料

教師の記録
<p>①名簿を活用した記録</p> <p>本題材では児童の活動の様子や対話の記録に名簿を使用する。造形遊びでは、座席を離れて複数の児童で集まって活動することも想定できるため、座席表よりも名簿が適していると考えられる。色を変えて記入することで、児童の活動の状況把握と手だてを講じた後の変化が一目でわかるようにする。特に、児童が形や色を変化させながらイメージを捉えている姿を記録として残す。</p> <p>②デジタルカメラによる記録</p> <p>名簿同様に、児童が形や色を変化させながらイメージを捉えている姿を記録として残す。児童の制作過程を記録することで、活動途中やまとめの時の児童への振り返りに使用できる。</p>

## 4 指導観

(1) 題材観

本題材では、アルミホイルを主な材料として、その優れた可塑性やキラキラと光る金属の素材感を楽しみながら自由に発想して、形を変えたり、組み合わせたりしながら造形的な能力を培うことができる。アルミホイルは中学年の生活経験においては、どの児童にとっても日常の中で目にしたことのある身近なものである。金属特有のキラキラとした素材は、造形の材料として興味・関心をもちやすく、発想の広がりもある材料であると考えた。

また、児童が今までに身に付けた用具の使い方や経験を生かして形を変えやすい材料でもある。アルミホイルは紙と同じように、切ったり、ちぎったり、穴をあけたり、セロテープでつなげたりすることが可能である。可塑性においては、丸めたり、ねじったり、棒状にしたり、包んだり、立体的な表現をしたりする上で紙より扱いやすい場面もあると考える。

このことから、児童が自分のイメージを形に表しやすく、手や体全体の感覚を働かせて材料を自由に扱いながら発想を繰り返し、次々と形を変化させながら造形的な能力を伸ばしていくことに適した材料であると考え、本題材を設定した。導入では、アルミホイルを造形の材料と

して意識させるために、材料との出会いを大切にしたい。「どんなことができる?」「きれいを探してみよう。」と投げかけ、自由に触れることを通して、造形の発想につながる特徴に気が付くように児童の感想を引き出していく。展開の活動において、容易に形を変えられるのはアルミホイルの特性として良い部分でもあるが、材料の量が少ないと活動が広がらず、「遊ぶ」よりも作品を「つくる」活動になりやすい。そのため、手だけでなく体全体の感覚を使って表し方を工夫できるように、場に働きかけた活動ができるような仕掛けを設定した。

まず、アルミホイルの量は一人一本ずつ渡し、それがなくなってもさらに活動できるように全体で使える分も大量に用意した。また、児童に切り方の説明などをする際に、普段の生活の中でアルミホイルを使うときには考えられないような長さに広げて切り、ダイナミックな活動の可能性を感じさせる。次に、児童が手を伸ばして届く高さで、図工室の壁から壁にスズランテープを張り巡らせ、場に働きかけて発想が広がるように意識的に声かけをする。そして、空間全体に意識が向くように図工室の机を外に出し、オープンスペースで活動を行う。材料だけでなく場を意識して、空間全てから造形的なよさや面白さを感じる体験を通して、一人一人が感性を働かせながらつくりだすことの喜びを味わう機会になるのではないかと考える。

まとめでは、授業中に児童の活動の様子をデジタルカメラで撮影したものをテレビに映し、児童の活動の変化や面白い活動をしていた児童の様子などを、写っている本人に説明させたり、教師が説明したりしながら活動を振り返る。

## (2) 研究主題との関わり

本題材においては、学習の実現状況が達成不十分な児童に対して、次のような「児童の資質や能力を育むための具体的な手だて」をとる。

### 【本題材における手だての一例】

手だて	具体的な手だての内容
共感的 声かけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミホイルに積極的に関わり、その素材感を楽しんでいる児童の姿を褒め、まわりの児童にも紹介する。</li> <li>・試行錯誤しながらイメージを形にしている児童には、今できているもののいいところやおもしろいところを具体的に褒め、安心して活動できるように励ます。</li> </ul>
助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までのアルミホイルとの関わりや紙を扱った経験を思い出させて、切ったり折ったり丸めたりできる材料の特性を感じながら楽しむように促す。</li> <li>・自分で作った形から発想が広がらない児童には、それが何に見えるかをいくつかの選択肢を挙げて問いかけ、発展的な発想の手助けをする。</li> </ul>
実演	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミホイルを折りたたんで作った棒では強度がなく、イメージが形にできずにいる児童には、ねじって棒状にすると強度が高まることを具体的に示して見せる。</li> <li>・アルミホイルとアルミホイルの接着に悩んでいる児童には、セロテープではなくアルミホイル同士で包み込むようにするとよいことを実演しながら説明をする。</li> </ul>

<p>材料・道具 の提示</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸く固めたアルミホイルのかたまりを変形させたいと訴える児童に、げんので叩くことを伝え、提示する。</li> <li>・色を付けたい児童には、油性のマーカーを提示することで発想の広がりをもつ。</li> </ul>
<p>児童の相互鑑賞</p> <p>教師が意図的に場面を設定して行う相互鑑賞</p> <p>児童が自発的に鑑賞を行うための場・時間の設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場から発想を広げていたり面白い発想をしたりしている児童を具体的に紹介し、見に行ったり一緒に活動したりすることを勧める。</li> <li>・一人で発想が広がらずに活動が停滞している児童には、友達の活動を見たり共感する活動をしている児童と共同で作業をするように勧める。</li> <li>・活動を中断して、場から発想を広げていたり面白い発想をしたりして活動している児童の作品を紹介し、注目する時間を作り、更なる発想の広がりをもつ。</li> </ul>

(3) 材料・用具・活動場所の設定

材料・・・アルミホイル（一人一本、予備4本）

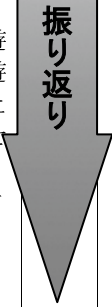
用具・・・アルミ缶加工用はさみ、セロハンテープ、油性マーカー（カラー）、ごみ袋、デジタルカメラ、テレビ

活動場所・・・机を移動し、広い空間を作る・図工室にスズランテープを張り巡らせる。

(4) 本題材における [共通事項]

アルミホイルを自由に用いて、形やその組み合わせなどの感じを捉えること。



<p>ウ) 表したいことを、形に表す方法が分からない。</p>	<p style="text-align: center;"><b>活動・過程</b></p>  <p style="text-align: center;">振り返り</p>	<p>イ) ②教師の声掛け 同じような活動をしている児童の活動を参考にしたり、交流したりすることを促す。</p>	<p>○友達や教師と関わりながら発想を広げ、思いついたことを自分の活動に生かしている姿を観察・作品・聞き取りから捉える。 (イ発想や構想の能力)</p>
<p>【まとめ】 15分</p> <p>4 自分の活動を振り返る。 ・活動を振り返り、遊びでしたことや、遊びを通して発見したことなどを発表させる。</p> <p>5 アルミホイルを片付ける。</p>		<p>ウ) 実演 さまざまな技法を実演して、具体的に例示する。 ウ) 材料・道具の提示 表したいことを聞き取り、そのために有効な道具を提示する。</p>	<p>○自分のイメージに合わせて、作り方を工夫しながら作っている姿を観察・作品から捉える。 (ウ創造的な技能)</p>
		<p>・デジタルカメラで撮影した写真をテレビに映しながら、教師や児童の言葉で説明しながら活動を振り返る。</p> <p>・材料について、友達との活動について感じたことを発表させる。</p> <p>・つくったもののなかで、持ち帰りた以外のものは片付けさせる。</p> <p>・投げないなど安全についての指導をする。</p>	

## 6 成果と課題

<p style="text-align: center;"><b>成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の中で自分のイメージをもって形にできずにいる児童には、教師による「助言」や「児童の相互鑑賞」を促す声かけを手だてとした。その結果、児童は友達とのかかわりを通して、より大きな変容が見られることが分かった。友達とのかかわり合いの仲で、児童同士で共感的な声かけが自然と生まれて、互いに認め合いながら伸び伸びと発想を広げる様子が観察された。また、友達の活動に刺激を受けることで新たな視点に気づき、さらに活動や材料の形を変化させるなど、発展的に発想を繰り返す児童もいた。</li> <li>・デジタルカメラで活動の様子を記録したことは有効であった。造形遊びでは、児童の活動は次々に変化し、形を残さないことが多い。また、活動する仲間や場所も、一定ではないことがしばしばである。そのため、デジタルカメラを使つての児童の活動の変化を、手だてを講じた前後で記録できることは、授業後の評価はもちろん、授業内での途中の鑑賞や、まとめの振り返りにも有効に活用することができた。その際には、撮影しながら児童と十分に対話を行い、児童のもつイメージを教師も共有していることも重要であると感じた。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形活動において、「材料・道具・資料の提示」は、手だてとしてキーポイントになると授業を通して感じた。はじめの材料との出会いで、アルミホイルを少しちぎって提示するか、児童の身長分くらい長く出して見せるかで、その後の児童の活動に大きく影響する。同じように、活動の途中提示した道具によって、児童の活動が大きく広がることもあれば、それに影響されて全体の活動が同じようなものに制限されてしまうこともあるだろう。新たな視点をもつために、児童の活動が発展的に変容するために、造形遊びにおける有効な「材料・道具・資料の提示」という手だてについて更に吟味していく必要があった。</li> <li>・評価資料として、他の検証授業のように座席表ではなく、名簿に教師の記録をとったことは有効であったが、活動の内容も場所も変化が大きい造形遊びでは、記録しきれないこともあった。今回は手だてを講じた後の変化が分かりやすいように記録するペンの色を変えたが、扱う材料や活動する場所によっては十分に記録できないことも考えられる。素早く記入しやすく、また振り返るときに見やすいように、時系列確認表に合わせて記入スペースを区切るなど、評価資料の収集方法を、更に工夫する必要を感じた。</li> </ul>

### 検証授業③

1 題材名「名画ウォッチャー」 B鑑賞（1）A表現（2） 対象 第5学年

#### 2 題材の目標

ジョアン・ミロの「道化師のカーニバル」を鑑賞し、友達と話し合ったり、絵から話を想像したり、表現する活動を通して、そのよさや特徴を味わう。

#### 3 題材の評価規準

(1) 題材の評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
評価規準	美術作品を自分らしい見方や感じ方で味わおうとしている。	作品の形や色の特徴から、想像を広げている。	作品の色や形の特徴を捉え、その特徴を生かした表し方を工夫している。	感じたことを話し合いながら、形や色、表し方の特徴やよさ、主題を感じ取っている。

本題材における評価の資料

教師の記録	児童の記録
<p>① 座席表の活用（児童の活動の様子の記録）</p> <p>本題材では1枚の座席表を使う。特に、手だての前後で色を変えて記入することで児童の変容の様子が分かるようにする。</p> <p>また、児童が色や形の特徴を基に、自分のイメージを捉えている様子を記録として残すように努める。</p>	<p>鑑賞カード（自己評価・児童間の相互理解）</p> <p>自分が感じたことや考えたこと、また形や色の特徴を捉えている様子が分かるようにする。</p> <p>また、次時のA表現（2）の活動でのアイデアシートとしても共有し、計画的に指導、支援を行うことができるようにする。</p>

#### 4 指導観

(1) 題材観

ジョアン・ミロの「道化師のカーニバル」は、その形や色の特徴が児童に強い印象を与え、いろいろなイメージが膨らむ作品である。一人一人が作品を見て感じたことから、自由な観点で自分の思いをもち、鑑賞できると考えた。形や色を分析的に見たり、作者の意図や気持ちを読み取ったりすることができる、第5学年の特徴から、本題材を設定した。

鑑賞の活動では、一人一人が感じたことを大切にしながらも、班で意見を共有できるようにする。自分が感じなかった意見が友達の意見として出ることも考えられるが、そのことによって一人では想像できなかった新しい見方や感じ方に触れることになる。鑑賞をすることによって、新しい見方や感じ方に気付くことを大切にしたい。最後に、絵に自分達が考えた登場人物や要素を加えたりして、それぞれの発想をもとに新しい「道化師のカーニバル」を絵に表す活動を設けた。

本題材を通して、ジョアン・ミロの色や形の特徴から受けた印象を基に、作品から感じたことを話し合う活動を通して、自分達ならではの解釈で更に作品の特徴やよさを味わうことができると考える。



(2) 研究主題との関わり

本題材においては、学習の実現状況が達成不十分な児童に対して、以下のような「児童の資質や能力を育むための具体的な手だて」をとる。

【本題材における具体的な手だての一例】

手だて		具体的な手だての内容
共感的声かけ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と対話しながら作品に描かれているものを一緒に考える。</li> <li>・児童が想像したことを認め、安心して活動ができるように励ますなど、共感的な声かけを行う。</li> </ul>
助言		<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなものが描かれているのか、生き物、静物など、観点を与えて鑑賞するように促す。</li> <li>・作品に描かれているものや、色や形の特徴をヒントに考えるように促す。</li> </ul>
実演		児童が思いを実現するために適した材料や道具を提示したり、具体的な手段を示したりする。
児童の相互鑑賞	教師が意図的に場面を設定して行う相互鑑賞	友達の意見を聞くように促したり、一緒に作品を鑑賞したりして、児童が作品のよさを感じ取れるようにする。
	児童が自発的に鑑賞を行うための場・時間の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と意見交流する場面や時間を設定する。</li> <li>・鑑賞カードを基に発言する機会を設定する。</li> </ul>

(3) 材料・用具・活動場所の設定

- ・児童…筆箱、色鉛筆
- ・教師…ジョアン・ミロの「道化師のカーニバル」の絵図を鑑賞カードにしたもの（一人一枚）、表現活動用の絵図（一人一枚）、プロジェクター、スクリーン、実物投影機、カラーペン

全員で話し合う時に互いの気付きを共有できるように黒板にスクリーンを貼り、作品を大きく見せるようにする。

(4) 本題材における【共通事項】

ジョアン・ミロの「道化師のカーニバル」の色や形の特徴を捉え、自分のイメージをもつこと。

## 5 学習活動の展開

□ : 児童全体への手だて

□□□ : Cの状況と判断される児童の姿と手だて

児童の姿		児童の資質や能力を育むための手だて	評価の視点
<p>【第1次】45分</p> <p>1 ジョアン・ミロの「道化師のカーニバル」鑑賞する。</p> <p>2 作品に何が描かれているのかを見て、鑑賞カードに記入する。</p> <p>ア) 作品に興味を持てず、鑑賞活動に参加できない。</p> <p>3 班の中で、自分が発見したことを伝え合う。</p> <p>4 共有した意見を基に、どんなことや様子が描かれた作品なのかを考え、鑑賞カードに記入する。</p> <p>◇エ) 作品の色や形の特徴から自分なりの見方で主題について考えたり、読み取ったりすることができない。</p>	<p>はじまり</p> <p>活動・過程</p>	<p>ア) 児童の相互鑑賞、意見交流（場・時間の設定） 「どんなものがあるのか、じっくり見てみよう。」という鑑賞の視点を示し、主体的に鑑賞できるようにする。</p> <p>ア) 助言 生き物、静物などの読み取るための視点を示し、鑑賞活動に参加できるように促す。</p> <p>ア) 共感的声かけ 児童と一緒に対話をしながら、作品に描かれているものを一緒に考える。</p> <p>ア) 児童の相互鑑賞、意見交流（場・時間の設定） 班の中で見つけたことを伝え合う活動を設定することにより、友達の見方や感じ方に触れられるようにする。</p> <p>エ) 助言 作品に描かれているものの一つに注目させて想像させたり、色や形の特徴をヒントにしたりして考えるように促す。</p> <p>イ) 助言 意見は根拠となる理由を付け加えながら発言させるようにする。</p> <p>・絵の解釈に正解はなく、自分の感じたことを率直に発言してよいことを伝える。</p>	<p>○作品のよさや特徴を自分なりの見方や感じ方を大切にしながら味わおうしている姿を観察・鑑賞カードから捉える。 (ア造形への関心・意欲・態度)</p> <p>○作品の色や形の特徴から主題を読み取ったり、想像している姿を観察・鑑賞カードから捉える。 (エ鑑賞の能力)</p>

<p>【第2次】 45分</p> <p>5 鑑賞カードに前時の意見交流を基に、自分が想像した世界を描き加える。</p> <p>◇イ) 作品から想像を広げることができず、表現活動に参加することができな</p>	<p>活動・過程</p>	<p>ウ) 材料・道具、資料の提示 全体に描画材の提示をし、イメージの幅が広がるように声かけをする。</p> <p>イ) 共感的声かけ・材料・道具、資料の提示 児童が想像したことを認め、安心して活動ができるように励まし、解決のために必要な手段を具体的に示す。</p>	<p>○作品の色や形の特徴から、想像を広げている姿を、観察・鑑賞カードから捉える。(イ発想や構想の能力)</p> <p>○作品の色や形の特徴から想像したことを班での話し合いを基に工夫して表そうとしている姿を観察から捉える。(ウ創造的な技能)</p>
<p>【第3次】 45分</p> <p>6 実物投影機を使い、それぞれの製作した作品を鑑賞し合う。</p> <p>エ) 友達の作品を見たり、話を聞いたりする活動に興味を持たず、鑑賞活動に参加できない。</p>		<p>振り返り</p>	<p>エ) 児童の相互鑑賞(教師から促す) 友達の作品や、作品に込めた話を聞くように促したり、作品のよさや楽しさを伝えたりして、鑑賞活動に取り組めるようにする。</p>

## 6 成果と課題

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座席表を用いて児童の様子を観察することで、評価がCの状況と判断される児童に、その授業の間または次の授業で的確に支援をすることができた。</li> <li>・座席表に児童の様子を記入することで、授業内で声をかけていない児童や評価をしていない児童に気付くことができた。</li> <li>・五つの手だての中で、特に「児童の相互鑑賞、意見交流」の場を設定することは、自動にとって自分の考えを膨らませたり、新たな見方や感じ方に気付くきっかけとなっていた。</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色の特徴を基に、児童が自分なりにイメージを捉えている姿を観察するにあたり、座席表に書き込む余白が狭く、細かく記入することが難しかった。題材に応じて、座席表の形式を変える必要がある。</li> <li>・五つの手だてをどのタイミングで行うのか、評価がAの状況と判断される児童、Bの状況と判断される児童、Cの状況と判断される児童によって異なるので、適切なタイミングを探っていく必要がある。</li> </ul>

## 7 鑑賞カード

### 鑑賞カード

- ① 何がかかれていますか？色と形の特徴に注目して見てみましょう。見つけたものは○で囲んで、言葉で書きましょう。

ジョアン・ミロの「道化師のカーニバル」を  
カラーコピーしたもの

- ②この絵にはどんな様子がかかれていますと  
思いますか？

- ③<話し合いの後で>

この絵はどんな様子がかかれた絵だと思いますか？

## V 研究の成果

本研究の成果として、研究員全員が学習指導要領の目標や、内容、共通事項などを確認しながら、図画工作科教育における評価の在り方について、理解を深め、児童の資質や能力を育むための評価について具体的に考え、主題に迫ることができた。

### 1 時系列確認表の活用

平成22年度の教育研究員の研究において、児童一人一人に何が起きているのか、どのような気持ちの流れがあるのかを把握するために活用された時系列確認表を、今年度も活用して児童の活動過程を捉えることにより、評価のタイミングや手だての選択を考えるとときや、授業後の振り返り・考察をする際に極めて有効であった。

### 2 主題にせまるための五つの手だて

「児童の資質や能力を育むための評価」をフィードバックするための手だてを、五つに絞って考えたことにより、児童に対する手だてのタイミングや方法をより具体的に場面に応じて考えることができ、具体的な声かけの内容や児童に提供する材料などをあらかじめ用意することができた。また活動過程における児童の発想や構想の力が伸びる場面を捉え、評価に生かすとともに、授業改善につなげることができた。

### 3 評価資料の収集

児童の活動過程における記録を、手だてを講じた前後の変化がわかるようにより具体的に考え、統一したことにより、授業後資料を有効に活用することができた。

## VI 今後の課題

本研究の今後の課題として、次の2点が挙げられる。図画工作科の目標を基に、児童の資質や能力を育むために有効な評価のあり方について、引き続き研究を進めていきたい。

### 1 資質や能力を育むための手だての吟味

活動の過程で評価を児童に返していくために、本研究では学習の実現状況がCの状況と判断される児童を、Bの状況に近付けるための手だてに重点を置いて研究を行ったが、造形に関する関心・意欲・態度に関してはCの状況と判断される児童は少なかった。また、今回の手だての中にはAの状況と判断される児童にも有効なものも多くあった。研究主題に迫るための具体的な手だてを更に吟味していく必要があった。

### 2 評価資料の収集方法の工夫

座席表や名簿の記入・デジタルカメラによる撮影・撮影した映像の投影などの方法は、児童への手だてを講じた前後の変化を見るのに有効であったが、危険な道具を多く使用する活動や、製作の援助が必要な活動のときは難しい時もあった。活動の内容に応じて評価資料をどのように収集していくか、更に考えていく必要があった。

### 3 児童相互のかかわり合いの重視

今回、児童の活動過程をつぶさに観察することにより、児童同士のかかわり合いや意見交換が活動に大きく影響し合うことがわかった。児童はお互いにかかわり合うことにより考えを再構築したり、認め合うことでやる気を持続させたりしていた。このかかわり合いをより効果的に進めるために、教師側の手だての講じ方について、今後研究を深める必要がある。

#### 4 指導と評価の一体化を中心とした授業改善

本研究では、主に児童の活動過程の評価を中心に研究を行ったが、評価を積み重ねていく過程で、指導内容を修正したり、児童に与える材料を精選したりすることによって、授業改善に取り組むことができた。特に造形遊びでは、教師の材料の与え方や場の設定の仕方によって活動が変わってくる事があり、児童の活動を観察し、評価しながら、より効果的な材料の与え方や場の設定を考え、指導内容を修正することができた。しかし題材によっては、評価が十分に授業改善に生かせずに終わってしまうことがあった。

これらのことを今後の課題と捉え、評価を授業改善に生かすために、評価資料の具体的な活用方法について、更に考えていく必要がある。

# 平成24年度 教育研究員名簿

## 小学校・図画工作

地区	学校名	職名	氏名
江東区	枝川小学校	主任教諭	谷田 直勝
世田谷区	松沢小学校	主任教諭	瀬沼 美雪
板橋区	志村第二小学校	主任教諭	◎茂木 美穂
東村山市	回田小学校	主任教諭	菊川 美央
あきる野市	前田小学校	主任教諭	二葉 優子

◎世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 松永 かおり

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

指導主事 藺田 賢志

平成24年度  
教育研究員研究報告書

小学校・図画工作

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕

平成25年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6882  
印刷会社 株式会社 イマイシ